

群馬県への避難者の救護

| | | | |
|-----|-------------|----------------------------------|--|
| 新町駅 | 一、救護日数 | 九月四日より 九月十四日いたる 十一日間 | 五、救護物品種類及数量 |
| | 二、救護団体名及係員数 | 係員 十四人 医師 四人 多野郡救護団 | パン 握飯(おにぎり) 一五、六八〇個 馬鈴薯(ジャガイモ) 三六〇個 梨 八三貫 水 四七三個 玉蜀黍(トウモロコシ) 六三四貫 五穀黍 一六〇本 焼餅 二〇〇個 瓶入飲料水 一六〇本 麦湯(麦茶) 一、〇二〇本 |
| | 三、救護者数 | 受療者 三十八人 九百三十一人 | |
| | 四、收容所及收容者数 | 新町罹災者收容所九月四日より 九月十八日いたる 二百十八人 | |

新町駅

ヲ右所ニ出張セシメテ町内其ノ他ノ団体ノ協力共ニ救護措置ニ努メ遺漏ナクテ期ヨリ重ク脚ヲ救護杖ヲ携クハ左記如クモシテ其ノ他ノ老弱ニ在リテ施設亦概ニ同様ナリ

| | |
|-------------|---------------------------------------|
| 一、救護日数 | 自九月四日 九月十四日 十一日間 |
| 二、救護団体名及係員数 | 係員 十四人 医師 四人 多野郡救護団 受療者 三十八人 |
| 三、救護者数 | 九百三十一人 受療者 三十八人 |
| 四、收容所及收容者数 | 新町罹災者收容所 自九月四日 九月十八日 二百十八人 |
| 五、救護物品種類及数量 | 一五、六八〇個 握飯 |

| | |
|-------------|------------------------|
| パン | 三六〇個 |
| 馬鈴薯 | 八三貫 |
| 梨 | 四七一三個 |
| 水 | 六三四貫 |
| 玉蜀黍 | 一六〇本 |
| 焼餅 | 二〇〇個 |
| 瓶入飲料水 | 一六〇本 |
| 麦湯 | 一、〇二〇本 |
| 高崎驛 | |
| 一、救護日数 | 自九月五日 九月十九日 十七日間 |
| 二、救護団体名及係員数 | (毎日) 十三人 |
| 高崎市役所 | |

この文書は、東京方面から列車に乗ってきた関東大震災の避難民に対して、新町駅で多野郡救護団が行った活動の報告です。この報告の前には他に停車場（鉄道の駅）の様子が以下のように記録されています。

高崎線を使う避難者は9月3日夜明けから増えてきて、後から来る列車ほど大勢の人が乗り、列車内は立^立避難の余地なく、列車の屋根、機関車、貨車等、人が乗れそうな場所は全部避難者が乗っている状況でした。これらの人々は、群馬県を通過し他県へ避難する人、群馬県の親戚等に避難する人、とりえず東京方面から避難し行き先がきまっていない人の三通りでした。東海道本線が不通となったため、関西方面へ避難する人はみな高崎駅を通過することになり、県内鉄道沿線の駅では大勢の避難者の救護にあたりました。多くの人々は不安と飢餓にさいなまれ、衣服がない人もいました。高崎駅では、食料の他衣服や履き物も用意し、市役所職員や各中等学校の生徒など10以上の団体の人々が9月3日から19日まで救護に当たりました。